



1998年 4月20日

発行(社)三原青年会議所  
編集/広報委員会  
三原市皆実町1331-1  
(三原商工会議所内)  
TEL(0848)63-3515  
FAX(0848)62-1141  
インターネットアドレス  
http://www.tako.ne.jp/~mjc/

'98三原JCスローガン  
**夢・未来・創造**  
LOOKING FOR TOMORROW

今月号の記事

- 1面 ふりむけば三原市議会
- 2面 シリーズ・バードアイ○ボランティア、NPO、サン・シープラザ
- 3面 女王滝秘話/ペットボトル回収/他
- 4面 第23回三原やっさ祭りキャンペーンテーマ決定/第14回わんぱく相撲出場者大募集/他



超自分勝手時代の到来か。昔から人間って自分勝手なものなのかもしれないが、特に最近、ひどい人が多いように思う。経済の急激な発展によって、どんどん生活は便利になったのだが、失ってしまっているものも少なくない。歩道の植込みを見れば、空缶、タバコの吸殻、ゴミ、糞、等々。自分がいらなくなったら、他人の所へ捨てればいいのか。先日、自動販売機の空缶入れを掃除しようと蓋を開けると悪臭と虫のすみかであった。空缶入れと書いてあるのに生ゴミも一緒に捨ててある。他人が掃除するからいいと思っているのである。ゴミの分別収集とか、リサイクルとかを考えると以前の問題だろう。自分がしたくない事(いやな事)は、他人だっただけでいい。そのへんの意識のない人にゴミの分別とかリサイクルの大切さを一体どうやって訴えてゆけばよいのか。少年犯罪が多発しているが、こうした自己中心的な風潮のあらわれだろう。日本人の価値観であったはずの「お互い様」とか「感謝」という言葉はもう死語となってしまったのか。人の間と書いて「人間」と言う。人間は一人では生きてゆけないのである。だからこそ相手を思いやる心が必要であり、その心を持ってしまえば、人間は自然から淘汰されてしまうだろう。便利さだけを追求することがまちづくりとは言えない。今、失いかけている人間らしい心を取り戻すことが、案外住み良いまちへの近道なのかもしれない。

# ふりむけば三原市議会

やっさもっさ  
No.246

昨年12月の三原市議会定例会において、議員定数を30人から28人にする削減案が可決された。さらに新年度からは、食糧費や旅費などの経費を大幅に節減することで、770万円余りの議会費の削減を行う。厳しい財政環境の中、議員自ら血を流し率先して行財政改革に取り組む姿勢を示したものと言える。一方三原市は、財政再建に向けてどのような施策を行おうとしているのだろうか。(社)三原青年会議所有志は、3月16日に行われた三原市議会定例会総括質問を傍聴した。

**「予** 算使いきり主義」「決算を無視した予算至上主義」どこからか悪口が聞こえてくるようである。元より行政は民間企業のように利益を追及するものではない。しかし「費用対効果」、コスト意識は今後益々必要となってくる。西暦2000年には公的介護保険がスタートし、好むと好まざるに関わらず21世紀は地方分権時代である。ただでさえ地方自治体のこなす仕事の量は国の2倍であるといわれているのに、これに新たな負担が加わる。今から、危機意識を持って構造改革をしておかないと、21世紀にはもう手遅れになってしまう。“自治体倒産”という言葉が、他人事ではなくなるのではないだろうか。

**「平** 成14年には公債の償還のピークを迎える予想されている。しかし議会からは、その危機感が伝わってこないのは何故だろう。財政の健全性を示す経常収支比率(注1)は、三原市の場合90.4%(平成10年度見込)と硬直化が進んでいる。赤信号である80%はもう超えてしまっている。また借金返済のための公債費比率も20.5%と危険ラインの20%を越えてしまっている。一般財源の2割が借金返済のために、ただ消えてゆく。民間企業であれば、必死になってリストラを進めるであろうが、議会は形式的な質疑応答に終始し、具体的な財政再建策は見えてこない。

**何** 故見えないのかすぐに分かった。経営者であれば業績悪化に直面した場合、まず決算書を開き自分の会社の体質を分析するであろう。そして貸借対照表や損益計算書から、資金の流れや各事業の収益性を徹底的にチェックした上で、今後の戦略をたてリストラを進めてゆくはずだ。しかしながら私たちの手元には、三原市の予算案をチェックするデータがあまりにも少なすぎる。

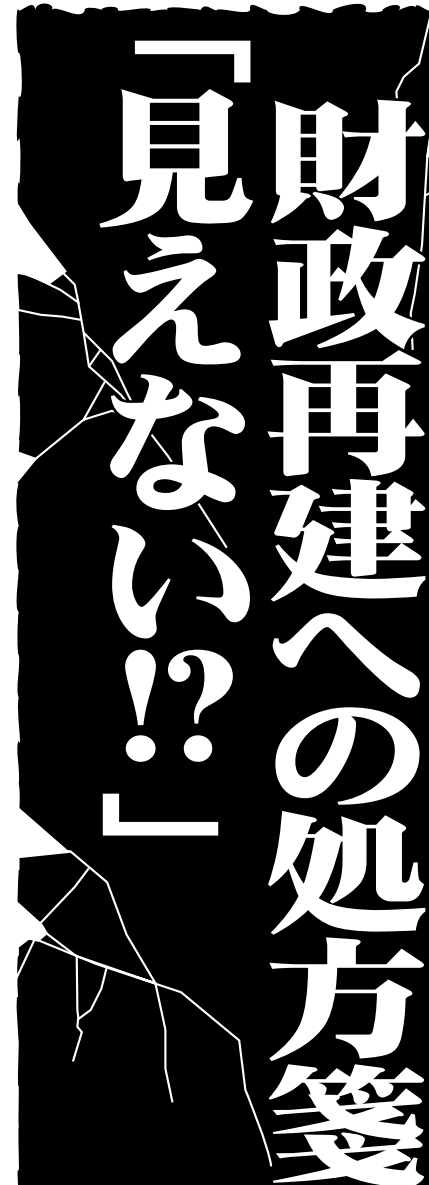
まず、財政再建をしてゆくには、市民に財政のディスクロージャー(情報開示)が必要で、自治体にはそのアカウントビリティ(説明責任)がある。現行の歳入・歳出重視の会計だけではなく、民間の会計方式を導入するなどして、分かりやすく市民に現在の市の台所事情を伝えてほしい。そして市民も自分のまちの財政状況や市議会・行政の動きに関心を持ち、声をあげてゆかなければならない。

**「予** 算使いきり主義」「決算を無視した予算至上主義」どこからか悪口が聞こえてくるようである。元より行政は民間企業のように利益を追及するものではない。しかし「費用対効果」、コスト意識は今後益々必要となってくる。西暦2000年には公的介護保険がスタートし、好むと好まざるに関わらず21世紀は地方分権時代である。ただでさえ地方自治体のこなす仕事の量は国の2倍であるといわれているのに、これに新たな負担が加わる。今から、危機意識を持って構造改革をしておかないと、21世紀にはもう手遅れになってしまう。“自治体倒産”という言葉が、他人事ではなくなるのではないだろうか。

**「対** 処療法じゃあなく、制度自体を変えなければ」また天の声がした。急場しのぎの対処療法では、問題の解決にはならない。荒療治が必要である。三重県は、民間の経営手法を積極的に導入し、独創的な行革を進めようとしている。またある自治体は、品質管理標準であるISO9000を取得することで、制度の根本的な改革を行おうとしているとも聞く。もう自治体のアイディア合戦である。

本年度の予算編成の中では、経費を節減する努力は見える。しかし、小手先だけの節減では何らこの状況は変わらない。民間活力の導入(民間へ事業を委託するなど)、部・課等たて割り組織の再編、職員数の見直し、補助金の見直し等、行・財政改革を断行する姿勢を市民に示して欲しいものである。市議会も行政のチェック機能を発揮し、未来のみはらがよりよいまちになるために全会あげて行財政改革に取り組んでいただきたいものだ。

**夢** はどんどん膨らむ。例えば、港も空港もフリートレードゾーン(自由貿易港)にして、株式会社“みはら”を設立し、経済的にも独立してしまう。そうなれば、国の補助金頼りなんて甘えはふっとんじやって、行政と住民が一緒になって必死にまちを運営するだろう。これこそ自ら治めるだよ。そして...ふりむけば三原市議会。しかし議会は静かに進むだけ。



三原市の財政状況の推移

区分	予算規模(百万円)	伸び率	経常収支比率(%)	公債費比率(%)	地方債残高一般(百万円)	増減率
平成8年度	33,303	12.6	81.5	16.6	37,884	14.2
平成9年度	34,607	3.9	当初 87.2	17.6	41,904	10.6
平成10年度	31,443	9.1	当初 90.4	20.5	43,682	4.2

注1 経常収支比率  
人件費、公債費など経常的経費へ一般財源がどれだけ充てられたかを示す比率。この比率が100%を上回ることは一般財源で経常経費をまかなえない状態を示し、地方債などの借金に頼らざるを得ないことを意味している。